

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教学IR委員会

(責任者名)	小杉 大輔
(役職名)	教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムの履修・修得状況については、教学IR委員会において分析・検証を行う。 令和7年度における本プログラムの履修者数は18名、単位修得者数は17名であり、修得率は94.4%となった。ただし、本教育プログラムの科目である「データサイエンス入門」は令和7年度以降入学生を対象としており、令和6年度以前入学生に対しては「統計学基礎」という同じ内容の科目を開講している。 履修者数の増加が課題であることから、教学IR委員会においては、学生への周知方法や履修環境の在り方について検討を進め、今後は、履修しやすい授業形態の整備や情報発信の工夫等を通じて、より多くの学生が本プログラムを履修できるよう、継続的な改善に取り組んでいく。
学修成果	教学IR委員会において、授業アンケートの結果を活用し、学生の理解度や満足度等の把握・分析を行う。 分析結果については、卒業時アンケートの結果と関連付け、学生の学修成果がその後の学修や進路形成にどのようなつながっているかを確認するとともに、授業内容や実施方法の改善に活用することを目指す。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムの科目「データサイエンス入門」について、本学で毎期実施する授業アンケートでは、「教員の説明は理解できるものであった」という項目で、5点満点中、4.1点と高い評価を受けている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では、授業アンケートの結果を全科目について学生に公表している。これにより、学生は各科目に対する満足度や評価を閲覧することが可能であり、本教育プログラムの科目「データサイエンス入門」についても、授業アンケートの結果を通じ、後輩等の他の学生への推奨度に類する評価状況を確認することができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムの科目「データサイエンス入門」は全学科目のキャリア形成(情報・データサイエンス)区分の選択必修科目である。同区分には「ICTスキル基礎」「デジタル表現基礎」の2科目が含まれており、これら3科目は相互に関連した体系的な学修内容を構成している。今後は、当該3科目をすべて履修するよう、全学的な履修指導の充実を図る。 また、令和8年度からは本授業をオンデマンド型遠隔授業形式で開講することで、時間割上の制約を軽減し、学部・学年を問わず履修しやすい環境を整備する。これにより、履修者数および履修率のさらなる向上を目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本教育プログラムは令和7年度開始のため、修了者に関する進路、活躍状況、ならびに企業等からの評価に関する調査は実施していない。 今後は、卒業生の就職先企業等へのアンケートを実施し、本教育プログラムにより身に付けた力が活用されているか、その力がどのように評価されているかについてのデータを収集する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>上項で述べた卒業生の就職先企業等を対象としたアンケートで得られたデータに加え、本学経営審議会等に参加する産業界出席者からも本教育プログラムの内容に関する意見を収集する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本教育プログラムの科目「データサイエンス入門」では、初回授業において数理・データサイエンス・AIが現代社会や産業において果たす役割や必要性を示し、学修への動機付けを行っている。 また、第2回目以降の授業では、表計算ソフトを用いた演習によって体験的な学修の機会を設けている。さらに数理・データサイエンス・AIの活用に際する幅広い事例のに触れることにより、学生が数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」および「学ぶことの意義」を理解できる構成となっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、授業アンケートにおいて「良かったと思う点」および「改善すべきと思う点」を学生が自由に記述できる項目を設けている。 これにより、学生が授業内容や進行方法について具体的に何を求めているのかを把握することが可能となっている。 授業アンケートの結果を踏まえ、内容・水準を維持・向上させつつ、より分かりやすい授業となるよう、教学IR委員会が授業内容や説明方法の改善に向けた助言を行っていく。</p>